

との返事だったそうでありま
す。そしてその教会へ向かう
時に、憩いの家で診察を受け
たら、「薬を止めても大丈夫
でしょう、と言われました。」
という事があります。何年も
止める事が出来なかった病氣
の薬を止めることが出来た訳
であります。

おさしづに、「親という理
聞き分け親という理聞き分け
目の前だけの親ばかりやない
目に見えん親もある、現在の
親と言う、親の理を見て治め
るなら鮮やか」（明治28年8
月3日）とあります。目に見
えん親とは教祖の事であると
思います。現在の親とは理の
親であり、ひいては真柱様で
あります。親の心配ごとをひ
とつ自分が担わせて頂く。こ
こに自分の心配事をひとつ消
して頂く元があるのでありま
す。と、お話ししました。

私はこのお話は今後もお道を
通る私達の基本姿勢であると
感じております。大切なポイ
ントのひとつであります。

現在、網走大教会の旬は、
三年後に迎える創立110周年に
向かい、皆が一手一つになっ
て前に進んで行く事だと思い
ます。その為新しい職務分担
も発表して下さいました。親
の心配を各自で担わせて頂き
ましょう。それぞれの持ち場

を責任をもって務めさせて頂
きましょう。と、言葉で言う
のは簡単なのであります。先
月この席で世話人先生がお
話下さいました。先生は、真
柱様の今年の1月春の大祭で
お話しされた、かんろだいの
事情について述べられ、真柱
様のお話のその中にこういう
一節がありました。「各段
をつなぐほども破損し、据え
替えまでの仮普及も出来な
かった状態から、お互いの心
のつながりが欠けているとお
知らせの様に思えたのであり
ます。『一手一つになれ』と
のお仕込みだと感じたのであ
ります。」と、真柱様はお話
くだされたのです。

10月25日の土佐先生のお話
に、「真柱様は神様になられ
る時が3度ある。1つ目はお
さづけの理を渡される時、2
つ目は春の大祭にお話し下さ
る時、3つ目は秋の大祭のお
話下さる時。」とお聞かせ下
されました。ですから、今年
春の大祭でお話し下された真
柱様のお話は、まさしく一手
一つになれと感じられたので
すから、私達も110周年に向
けて進む上で、そこに一手一つ
がなければ意味がないと思っ
たのであります。

しかし、一手一つになりま
しょうと言うが、それが難し
いですね。私はどうして一手
一つにならないのかと考えた
時、いつも思うのは勝手心な
のです。人間は勝手心を使う
から一手一つになれないのだ
と感ずるんです。

「陽気ぐらしは、他の人々と
共に喜び、共に楽しむとこ
ろに現れる。」と書かれてま
す。さらに、「人は、ややも
すれば、我が身勝手の心から
共に和して行くことを忘れが
ちである。ここには、心澄み
きる陽気ぐらしはなく、心を
曇らす暗い歩みがあるばかり
である。」そして、おさしづ
では「勝手というものは、め
んどんどとしてはいよいものな
れど、皆の中にとつては治ま
る理にならん。」(明治33年11
月20日)とございます。三年
後迎える創立110周年に向か
つて、勝手心を少しづつ出さな
い様心掛けて、皆さんと共に
一手一つにつとめさせて頂き
たいと思っております。

おふでさきに
をやのめにかのふたものハ
にちくくに だんく心い
さむばかりや 15号66
をやのめにさねんなものハ
なんときに ゆめみたよふ
にちるやしれんで 15号67

大教会 元旦祭



立教182年の元旦祭が、元旦
の午前8時に執行された。当
日は晴天の御守護を頂き、直
轄信者、住込み中心に、皆が
寄り集い、今年初めのおつと
めを勇んでつとめた。祭典終
了後、記念写真を撮り、教祖
のお流れを頂き、年始のお言
葉として、おふでさきを頂戴
した。
また、大教会の食堂にて、

お雑煮やお節料理を頂き、和
やかな雰囲気の中、会話も弾
み一年の初めを陽気に過ごさ
せて頂いた。



大教会お鏡餅つき

12月28日、9時半から31日
のお礼づとめ、元旦祭から正
月三ヶ日のお鏡餅つきを行っ
た。

大教会長を芯に参拝をして
から開始。親神様、教祖、霊
様合わせて、9臼、更にのし
もち等で4臼ついて、合計13
臼ついた。皆勇んで真剣にお
鏡餅を作った。

